

編集後記：「石垣島では南の風，風力2（絶妙な間をあけて）晴れ…」の渋い声で始まるNHKラジオ第二放送の気象通報の放送回数が減る，という気になる書き込みを，インターネットの掲示板で見つけました。NHKのWebサイトに掲載されている平成26年度放送番組編成計画によれば，確かに「9時10分から」と「22時00分から」の放送枠が語学番組に変わっており，気象通報は「16時00分から」の1日1回だけとなっています。ユーザーのニーズなどを反映した結果なのでしょうから，この場で存続要望のような意見を述べることはしませんが，我々気象関係者に少なからず影響を与えてきたであろうこの番組の放送回数が削減されることはとてもさびしく思います。インターネット上の情報では，番組の本来の目的であった漁業関係者からのニーズが減ったことが削減の理由だとか。

いわゆる「ゆとり教育」で小中学校の学習指導要領から削除されてしまった「天気図」という文言が，新学習指導要領では「日本の気象」内の小項目として復活したり，また高校総体の登山競技でこの気象通報を聞いて天気図を作成する項目があったりと，教育面でも大きな役割を担っている番組だと思うのですが…。

以前この欄に書いたことがあります，私も小学生時代はこの番組を聞きながら天気図を描いた気象少年でした。気象通報を聞いて天気図を描くことは，気象の世界を目指す若者の登竜門的存在である，と言ったら言い過ぎでしょうか？ 決して言い過ぎではないと個人的には思っています。あまり目立ちはしませんが，熱心なファンも少なからずいらっしゃるようです。今後，完全に廃止ということにならないよう，ただただ願うばかりです。（金田昌樹）